



外ニ在ラハ之ヲ同業者ニ示シ再三北海道ヲ  
巡覽シテ斯業ノ進歩ヲ討リ推セテ社長トナリ  
拮据勉勵遂ニ粗製濫造ノ弊ヲ矯正シ精良  
ノ蚕糸ヲ製シ名聲ヲ海外ニ博スルニ至ル即チ  
實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルキモノニ付褒  
章條例ニ依リ綠綬褒章下賜相成可然  
ト認定候条此段上申ス

秘 六四、四

群馬縣上野國綠野郡美久里村

町田菊次郎

右褒章、義群馬縣知事具申ニ付審査ヲ  
遂クル虞奉人ハ夙ニ蚕業、改良ヲ企圖シ高  
山組技業員ト爲リ各地ヲ巡回シテ改良養蚕  
法ヲ教授スルコト数年又各地有名ノ蚕業家ヲ  
歴訪シ彼我ノ長所ヲ採擇シ且技術者ニ就  
キテ蚕病ノ原因蚕卵検査法等ヲ研究シ大ニ  
得ル所アリ其後高山組ヲ改メテ養蠶改良高

山社ト稱スルニ及ヒ其副社長ニ推擡セラレヨリ社  
長トナリ大ニ其事業ヲ擴張シ事務所及傳習  
所ヲ之略圖所ニ設置シテ盛ニ各地ノ生徒ヲ養成シ  
又製絲高山組ヲ設ケテ生糸粗製ノ宿弊ヲ矯  
正シ精良ノ生糸ヲ製出シラ米國直輸販賣ヲ  
始メ又北海道ノ蚕業改良ヲ因リ三々ニ校地ニ赴  
キテ養蚕ノ景況ヲ視察シ且振業員ヲ派遣シ  
テ改良養蚕法ヲ教授セシク其他大日本農會  
農藝委員ニ推擡セラレ第三回内國勸業博  
覽會審査官ト爲リ又内國勸業博覽會共進

會等ニ於テ賞典ヲ受ケテ數回ニシテ佛國巴  
里萬國大博覽會ニ繭ヲ出品シ銅牌ヲ得タリ  
前述ノ如ク本人ハ實ニ私利ヲ抛ケ公益ヲ興シ  
實業ニ精勵シ衆庶ノ模範タルヘキ者ト視認  
ス依テ明治十四年才六十三号布告褒章条  
例第一條ニ據リ緑紋褒章下賜アラントラ  
請フ別紙群馬知事上申書類ヲ具シ申  
請ス

明治廿五年六月百

農商務大臣河野敏鎌



賞勳局總裁任費西園寺公望殿

甲第一九三号

實業之励精之衆庶ノ模範トナリ  
者褒賞下賜ノ義上申

養賢堂

佐藤國太郎

田嶋弥平

松下政右門

町田菊次郎

制絲家

松本源五郎

萩原鐘太郎  
徳江八郎

模範家

藤生佐吉郎  
下城弥一郎  
森山芳平

右之者共多年実業、従事し地方物産  
ノ改良増殖ニ熱心励精シ其成績著明ナル  
者ニ有之然ルモ是等実業ニ励精シ衆庶ノ  
模範トナリタル者従来表彰セラルキ例規ナ

カリレカ去ル明治廿三年勅令第七十二号ヲ  
以テ褒章條例ヲ増補セラルルニ於テ第八  
号即由訓ノ次第ニ有之ニ付焉リ該主題ヲ  
俾認シ官下実業者中尤モ実業ニ励  
精シ公益ヲ起シ衆庶ノ模範トナリ條例ニ  
該當スルキモノト視認俾テ前記十名ヲ撰  
拔シ別紙履歴調査致仕元来本人等ハ  
一地方ノ公益ヲ謀リタルニ及ラズ純中養蚕  
家ニ於テ其改良ノ実効遠ク各府縣ニ及リ  
故ニ是等実業者ヲ表彰セラルニ於テハ當

ニ本人ノ幸蒙ノミニ止テ人愈々人心ヲ鼓舞  
作典ニ實業ノ重スキヲ知ラシメ後進者ノ  
筆鑑トナリ倍々該業ノ発達ヲ見ルニ至  
ルニシテ致確リ後条褒章下賜相成根柢  
即詮議有之度爰ニ書類添此段及上申候  
也

明治廿五年四月九日

群馬縣知事申付元雄

農商務大臣河野敏篤殿

群馬縣上野國縣郡美久里村

平民 町田菊次郎

嘉永三年十一月生

家世々農業ヲ業トシ夙トニ蚕業ニ志アリ明治八年同郡高  
山村高山長五郎ナルモノ多平ノ経験ト熟練ト依リ清温  
育ト稱ス蚕見ノ養法ヲ發明シ高山組(今ノ高山社)ナルモノ  
ヲ設ケ近郷養蚕者ニ傳習スル頗ル善良ノ実践アルヲ以テ  
初メテ同人ノ明ニ入リ之ヲ研究ス同九年推擢ニ依リ同組飼  
育法授業員トナリ各地養蚕家ノ需メニ應シ養法ヲ巡回教  
授スル十四年同十三年同組監査員トナリ組内養蚕家ノ飼  
育法及各授業員ノ勤惰等ヲ監査ス同十八年高山組ヲ  
改メテ養蚕改良高山社ト爲シ業務擴張スルニ方リ社員ノ  
推擢ニヨリ副社長トナル而シテ夙ノ各地同業者就キ彼我長所

ヲ交換セハ其利益少小、非サルヘシト是ヨリ遠近有名ノ蚕  
業家ヲ訪ヒ叩リ、蚕事ヲ以テシ大ニ得ル所アリ又練木喜  
三松永伍作佐々木長淳等ニ就キ學理ヨ向ヒ蚕病ノ原因  
查明検査法ヲ研究爾來拮据勉勵内ニ在テハ之ヲ社員及生  
徒ニ傳ヘ外ニ在テハ廣ク同業者ヲ誘導シ大ニ飼育法ヲ改  
良セシメタリ同十九年北海道ノ蚕業改良ノ企テ同八月札幌  
ニ航シ風土氣候等ヲ視察九月帰郷十一月再ニ同地ニ渡航  
セシカ會ニ社長重病ニ罹レリト聞キ直ニ帰郷十二月同人、  
疾病漸ク重ク加ヘ復立ツ能ハサルニヨリ推サレテ社長トシ  
當時社員八百戸ナリ先社長ニ後十日ヲ経テ死シタリ是ヨリ  
彌益奮勵シテ改良ヲ普及セシメテ謀ル同廿年故社長ノ遺  
志ヲ継キ社員一同ノ賛助ヲ得地ノ同郡藤岡町ニ相シ事  
務所及傳習所ヲ設置シ漸ク遠來ノ生徒ノ養成スルニ至リ

此年兩度北海道ニ航シ該地方養蚕所ヲ巡視シ授業員ヲ  
派シ飼育法ヲ傳習セシメ帰郷ス是ヨリ先キ設ル所ノ製糸  
高山組ノ事業ヲ擴張シ粗製濫造ノ宿弊ヲ矯正セシメ  
日夜苦心且合同販賣ノ方法ヲ設ケ精良品ヲ製出し米國  
直輸販賣シ始ム同廿三年大日本農會農藝委員ニ推舉  
セラル同年第三回内國勸業博覽會審査委員ヲ命セ  
ラル

上來ノ結果、依リ現出セル景況ヲ舉レハ傳習所設置以來  
生徒ノ養成スル實ニ六百廿六人(普通)三年ヲ以テ卒業而シテ  
報酬月謝等ヲ受ケス)業ヲ卒ニ授業員トナリシモノ二百廿人  
現今社員ハ一道三府四十二縣ニ涉リ五千有餘戸ノ多キニ  
及ヘリ本社ノ斯ク盛大ニ至リシハ社長菊次郎ノ熱心ト懇切  
トヲ以テスルニ非サレハ茲ニ至ルリ得ス譬ハ前社長長五郎ハ一

ノ種子ヲ播キ現社長菊次郎之ヲ受ケ幾多ノ艱難ノ凌キ培  
養ノ研究ヲ積ミ歲月ヲ重キ美果ヲ得之ヲ数千倍ニ増殖  
シ益々進シテ止サルモノ、如シ實ニ本人ノ如キ、私利ヲ擲チ公  
益ヲ謀リ実業ノ励精シ衆庶ノ模範トナルモノト確信ス蚕  
業ニ依リ受ケタル褒賞ヲ尤ニ

同十五年群馬縣主催一府六縣聯合共進會ニ於テ出品  
繭ニ對シ六等賞示杯壹個ヲ受ク

同十六年埼玉縣沼上村ニ開キタル私立共進會ニ於テ出品  
繭ニ對シ二等賞示杯壹個ヲ受ク

同廿年神奈川縣主催一府九縣聯合共進會ニ於テ出品  
繭ニ對シ四等賞金七円ヲ受ク

同廿一年積年蚕業改良ヲ圖リ功勞不尠ヲ以テ賞與トシ  
テ本縣ヨリ金若干ヲ給ラス

同廿二年佛國ニ開設セル萬國大博覽會ニ於テ出品繭  
ニ對シ銅賞牌壹個ヲ受ク

同廿三年第三回内國勸業博覽會ニ於テ出品繭ニ對シ  
一等有功賞牌ヲ受ケ同會審査官格別勉勵セシ稜ヲ

以テ銀牌壹個金百円ヲ受ク  
刑罰ヲ受ケレナシ



崇  
尚  
禮  
省

乙第五五三三

實業有功者佐孫國方郎外九名居籍寫  
入用之越中官房祿第吾号可以三以也  
二村公孫及以國送及家可然以自振也  
序以步其及以是也

明治五年甲午月

釋馬好子申打元雄印

史記卷之九十五

追子最長三上申也也  
 中書長父嘉平郎八嘉十郎  
 六月七月性江八郎本籍伊勢崎町八三郷村  
 乃以依形也

群馬縣野郎美久里村大字本郷村百七番地

明治五年三月九日相統又

明治五年三月廿九日死七又  
 明治五年三月廿九日死七又

平民  
 前戸主父町田藤太郎  
 父町田藤太郎長男  
 主戸 町田南次郎  
 嘉永三年正月廿日生  
 七祖父久聖男  
 父 藤太郎  
 文政六年三月廿日生  
 妻 小く  
 安政二年一月廿四日生  
 女長 小く  
 明治七年八月廿日生

農商務省

男長  
男二  
男三  
弟  
女二  
女三

三郎  
明治九年十月三日生

市郎  
明治十五年四月三日生

重市  
明治十五年三月廿日生

父藤太郎二男  
南三郎  
明治五年三月八日生

まゆ  
明治二十年三月十日生

まゆ  
明治二十年十月廿日生

前書之通相違無之候也

明治五年四月五日

緑林郡美九里村長代理

須藤七郎四

豊前 彦

易原孫鶴

町田菊治郎

稟性温厚篤實にして実業に励精し一意  
養蚕改良に圖り國家ヲ益スルヲ以テ目的  
トスルノ外又他志ナクモノ如シ其高山社ノ長ニ  
奉ケテ其寮庶ノ責ヲ致セラルモ其志モ傲慢  
ノ弊ナキアリ品行方正ニシテ餘リ奉養ヲ謹恪ス

皇天高奇ノ目

農務司  
勸業司  
衛生司  
商工司  
陸軍省  
海軍省  
文部省  
内務省  
司法省  
大藏省  
逓信省  
農商務省

賞勳局第一七〇號  
十月十九日決裁

明治二十五年十月十五日

# 内閣總理大臣 甘文

賞勳局總裁



別紙内務大臣申渡島根縣士族堀禮造賞與件  
審査候處右ノ風意ヲ殖産公益ニ勵マシ嘗テ教  
育必要ヲ感シ村民ヲ獎勵シテ校舍ヲ建設シ道  
路ヲ修築シテ運輸交通ノ便ヲ計リ惡疫流行ニ  
方ツテハ避病院ヲ設ケテ之カ豫防ニ力メ凶歳ニ遭フテハ  
米廩ヲ開キテ貧民ヲ救恤シ又カヲ農桑ニ盡シ  
教師ヲ聘シテ稻作ノ改良ヲ計リ之レヲ衆人ニ傳習